コミュニティスークール（地域運営学校）

ハートフル多西

令和７年　６月３０日(月)
あきる野市立多西小学校
校　長　村岡　由季夫

多西小学校の日々の様子を学校ＨＰでお伝えしています。是非ご覧ください　→

たかが水泳、されど水泳

校長　村岡　由季夫

学校では、夏になると当たり前のように水泳指導が始まります。これは学校にプールがあるからできるわけで、実は学校にプールがある国は世界中でも珍しいことです。日本は島国であり周りを海に囲まれていて川が多いという地形や、寒中水泳や武術としての鍛錬に水泳が用いられてきた歴史から、人々の生活にとって水泳が身近なものになっています。また、修学旅行中の小中学生が乗った船が沈没し、多くの命が失われるという痛ましい事故があったことから、海岸での水泳訓練や学校にプールを設置する動きが広まり今日に至ります。万が一の場合、「自分の命は自分で守る」ことができるよう、身の処し方やある程度の泳力を身に付けることが大切と考えています。

学校では「水泳大好き」な子供たちが増えるよう、少なくても「水泳嫌い」にならないよう指導しています。大人になって海や川、プール等に行きたいと思うかどうかは、小学校時代の学習にかかっています。小学生のうちに「水を体に浴びる心地よさ」、「水にもぐったり浮いたりする楽しさ」、「泳ぐ楽しさ」を味わわせることができたら、生涯にわたって水泳に親しみ、楽しむことにつながるのではないでしょうか。

先日、子供たちといっしょにプールに入っていると、6年生が「クロールを教えてください。」と声をかけてくれたので、「ようし、やるか。」と息継ぎから練習しました。水泳が得意でないにもかかわらず、自分から「教えてください。」と言うその子の意欲に感激した次第です。生まれたときから泳げる人はいません。人によって、運動に対する好き嫌いがあるように、水に対する好き嫌いがあるのが当然です。暑い日に水を浴びたり、川の水に足をつけたりする心地よさがある反面、水に顔をつけたり、水が鼻に入ったりすることへの恐怖や不快感があることも否めません。水中は陸上と違って体の操作が難しく、できる子にとっては簡単な「水に浮くこと」も、できない子にとっては水中では息もできないし、体は沈むし、恐怖でしかありません。それでも１年生から「楽しく水遊びをする」ことから、少しずつめあてをもって取り組むことで上達します。進歩のスピードに個人差はありますが、努力すれば必ずできるようになります。ただし、そこには教員の適切な、タイミングを逃さない指導が必要で、ここが教員の腕の見せ所となります。「できないことができるようになる」ことは子供たちにとって何よりうれしいことですし、指導する私たち教員にとっても喜びです。そして、何より「できないことに挑戦しそれを克服した経験」は、体育だけでなく他の学習にもつながりますし、普段の生活のあらゆる場面で生きてくるはずです。「たかが水泳、されど水泳」。

もし、お子様が水泳に対してマイナスイメージをもっていたら、背中を押してあげてください。御家庭での御協力をよろしくお願いいたします。プールカードへの記入も忘れずに。夏休みには、親子で水に関わるイベントを予定している御家庭も多いと思います。その際「水は楽しいけれど危険を伴う」ことについて話す機会を作り、充実した親子の時間にしてください。

【お知らせ】

竜瀬紗季養護教諭が出産のため２学期より休みをいただきます。そのため、２学期以降は、永井由莉養護教諭１名での保健室対応となります。